

善徳

七三四一〇〇〇四
広島市南区宇品神田四一十一一八

善徳寺
電話〇八二二五一一六〇二九

いくつになっても、人から褒められると嬉しいものです。

人は褒められると、脳の中で、プレゼントをもらった時と同じ場所が反応するそうです。

子供は育つ上で、親を真似ながら、社会のルールを覚えていきます。その時褒められて嬉しいと、又次も褒められることをしようと思えます。

それを繰り返しながら私たちは大人になってきました。

こつこつ子供の心が残っているのでしょうか。時として、他人の評価を気にしすぎる場合があります。人の顔色をうかがいながら、他人に承認してもらおうと安心するという気持ち。これは大人になりきれていないのだと思います。

樹木希林さんは、自分の生き方を貫き通し、そのいさぎよい生き方に、亡くなられてからさらに評価が高まっています。その押しない態度が、人々の憧れと共感を呼ぶのでしよう。

ただ、私たちは色々な人間関係の中にいます。どうしてもその中で、いつの間にか不本意な方向に向かうこともあるかもしれません。

お釈迦さまは出家されて一般社会から離れた場所で苦行し、その後菩提樹の下で瞑想して、悟りを得られました。

最古の経典であろうと推測される「スッタニパータ」の中には、社会から離れて独りで瞑想するようにと再三説かれています。

こつこつと、世間の中で暮らしていると、他人との関係に引きずられてしまうからなのでしよう。

「自灯明 法灯明」という言葉があります。これはお釈迦さまが亡くなられる前に、弟子たちに説かれた最後の教えです。

お釈迦さま亡き後、どうしたらいいのかと嘆く弟子たちに、「自を抛りて」とせよ。他のものを抛りてころとしてはならない。法を抛りてころとせよ。他の教えを抛りてころとしてはならない。」と言い残されました。

法（真理）に裏付けられた自らの判断で生きてゆく。なんだか力が湧いてくる言葉ではありませんか。

写真 乙井 みどり



行事案内

初めて学ぶ

『歎異抄』講座 全五回

第一回 九月二十七日（金）

あらかし・序 第一条

第二回 十月二十四日（木）

第二条 第三条

第三回 十一月二十六日（火）

第四条 第五条

第四回 十二月二十日（金）

第六条・七条・八条

第五回 一月二十九日（水）

第九条・十条・後序

場所 広島別院

時間 第一部午後一時半、

第二部三時二十五分、

受講希望の方はお問い合わせ下さい

報恩講法要

十一月二十六日（火）昼席、夜席

二十七日（水）朝席、昼席

講師 熊本覺應寺 葦原理恵先生

写真教室

十月十五日（火）午後一時半より

◎今回は第一月曜日ではないので

ご注意ください

撮った写真を見ながら構図の

決め方などを習います。

講師 北恵 好照 先生

常朝時

毎朝七時から八時まで

正信偈勤行と経典解説

早朝の光の中で一緒に出勤しましょう

秋季 永代経法要

十月八日（火） 昼席 一時 夜席 七時半

九日（水） 朝席 八時 昼席 一時

講師 直方市 円徳寺 栗山 一思 先生

尚、七日（月）午後一時よりおみがきをします。

ご参加ください。

令和二年度前期
回忌法要御案内
(敬称略)

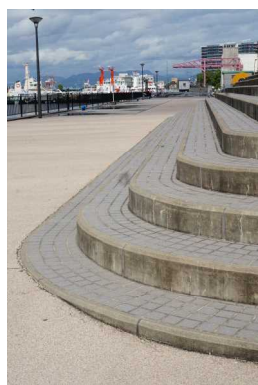
(敬称略)

一 周忌(平成三十一年寂)
一月 宮田憲三 原田桂子
大坪徳裕 谷村正夫
山本武俊
二月 崎本眞利子 岡朵義孝
松浦サノ卫
三月 浅山百合子 米本順一
竹井睦子 小山田妙子
藤原明美 西本ミチ子
四月 樋谷百合子
(令和元年寂)
五月 島本学
六月 伊藤一寿 福本隆史
木本幸雄 大窪利康
三登勲
三 三回忌(平成三十年寂)
一月 山野アキノ 寺尾和子
津川夕力コ
二月 小林律子 福田豊
大儀繁子 岡本進
三月 樋谷俊昌
四月 松本美紗子 長本博之
近清佐智子 松田千枝
境 巴 中神弘子
安達康史
五月 佐々木マサコ
寺西ヤス子 藤井卓美
大原征司

六月 大成忠 橋本ミサヲ
福傳敏之 長本政勝
中岡正明
七 七回忌(平成二十六年寂)
一月 柳川照子
四月 西若江 中井泰
五月 長村幸子 藤田ひかり
石田ツタ工 山根鐵男
六月 橋野眞由美 福本説治
丸本フク子 空本政子
十二 十二回忌(平成二十年寂)
一月 向谷ミツ子 矢野文字
西永悦男 八重垣一弘
二月 堀本清子
三月 林ミチ工 小泉和子
八木瞳
四月 柴崎八ナ子 中井四郎
船田利明 高橋好見
山下治男
五月 中矢子工力
六月 部村トメ子 井上正
奥田正康
十七 十七回忌(平成十六年寂)
一月 原勝美 竹本ヤヨ子
深崎紀代子 藤原静行
二月 後藤國子 原口忠美
村本一吉
三月 下田浩
四月 竹本肇 田中美子

五月 津村義一 後藤一三
石橋正治 和氣ハルコ
金井実 梶岡房枝
六月 下野之也 新井金喜
宇都宮アズ子 山口正志
二十五 二十五回忌(平成八年寂)
一月 坂井英幸 山口忠義
北野安子 馬場隆夫
二月 小池コズ子 増谷唯男
松本ハル工 柴田馨
中村アキ工
三月 村上知仙 末吉隆文
冲山能
四月 田中スエ子 橋本伊佐夫
五月 小脇一 宇野勝一朗
神垣ウメ子 山本光子
菊本幸夫 安森正男
六月 冲広志津子 桑名庄之助
三十三 三十三回忌(昭和六三年寂)
一月 細川寿子 平井イセ
柴崎マツ子
二月 半田政江
三月 高橋シズ子 森信彦
郵便番号 七三四一〇〇〇四
広島市南区宇品神田四丁目十一の八 宗教法人 善徳寺
電話 〇八二二五一六〇二九
振込 もみじ銀行宇品支店(普) 〇686234
ゆうちょう銀行 〇1330-0154635

松本シマ子 松島喜良久
四月 島崎栄吉
五月 堂本益男 石原ウヲ
六月 富士田喜代子 芝福松
福本十一 三好孝
砂川末一
五十 五十回忌(昭和四十六年寂)
一月 山野キミ 長尾ユキノ
谷 壽美江 小西力ノ
二月 今村松助
三月 南角好太郎 宮尾彰道
大堀政次郎 三輪シオウ
四月 政岡アサ子 石井直之
五月 市場リセ 森本ツイ
豊田弥一 湯藤クマ
写真 富永万喜子



敬 弔
お浄土に参られた方を謹んでお知らせ致します。
八月三十一日寂 海田町 三輪 小夜美様 六十七才
九月一日寂 佐伯区藤ノ木 木村 ヤスミ様 九十才
九月七日寂 神田五丁目 関 章様 八十七才
九月十四日寂 御幸三丁目 藤原千鶴子様 九十六才
九月二十七日寂 西旭町 平木 和宏様 七十二才
写真 乙井みどり
「善徳」年七回発行
護持会員には毎回配布
ホームページ「宇品善徳寺」